

[ヨルダン]

# こだわりのオリーブオイル を召し上がれ!

昔ながらの自然農法でオリーブを生産するヨルダンの農民たち。  
そのオリーブで作られたオリーブオイルが、日本に上陸した。

# Close Up!

ジャイカ  
の  
あしあと



**細**長い瓶に詰められたオリーブオイル。それを誇らしげに掲げるのはオリーブ小規模農家の人々だ。

近年ヨルダンでは、大企業の参入によって価格競争が激化しオリーブの値段が暴落、農家の生活は追いつめられていた。そんな中、現地で経済的自立支援を行う(社)日本国際民間協力会(NICCO)が、2004年からJICAや同国農業省と連携して北部ジェラシユ県ブルマ地区のオリーブ農家の支援を開始。化学肥料や農薬を使わず天水を利用して栽培する伝統農法の効率化を図ろうと、組合の立ち上げをサポートし技術指導を行った。

そうしてできたオリーブは早期に手摘みされオイル製造工場へ出荷されるが、その工場にも協力を求め、無濾過<sup>ろか</sup>・低温で圧搾。素材を生かした高品質のオリーブオイルを一定量生産できる仕組みを整えた。

さらに、オイルが品質に見合う価格で正当に取り引きされ、利益が農家に還元されるよう、有機JAS<sup>1</sup>認証の取得を目指し、農

作業を記録した書類の作成や認証検査受け入れの準備に取り掛かった。NICCOアンマン事務所の大家友子さんによれば「文字を書

くのも不慣れな農家は書類作成に苦勞し、初めての共同作業も最初は戸惑っていた」。しかし、9農家からなる2つの組合は06年11月、ついにヨルダン初の有機JAS認証を取得。国内外で高く評価されたおかげでオリーブ価格は50%アップ、農家の収入も上がり、人々は喜びの悲鳴を上げている。

商品化されたオリーブオイルは「ロイヤル・ナバリ・オーガニック」のブランド名で日本にも輸出され、有機食品を扱う店<sup>2</sup>の棚に並んでいる。

また、今年7月、この成果を周辺国へも広げようと隣国パレスチナの農家をヨルダンへ招き、勉強会を開催した。大家さんは「オリーブオイルを通してネットワークを広げ、中東地域の平和にも貢献したい」と話している。



1 日本の農林水産省が定めた有機農産・畜産・加工食品の日本農林規格。

2 商品取り扱い店舗などの詳細は、NICCOのホームページ([http://www.kyoto-nicco.org/olive\\_info.htm](http://www.kyoto-nicco.org/olive_info.htm))参照。